

# 英語科

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード: 作成者: 上野, 郁子, 渡村, のりこ, 滝沢, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00058153">https://doi.org/10.24517/00058153</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 英 語 科

上野 郁子

渡村のりこ

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

## 1. 伝統文化教育を進めるに当たって

生徒たちがこれから生きていく社会においては、情報通信や交通等の手段の発達により、様々な文化を背景とした諸外国の人々と共存することがこれまで以上に求められる。そのため、お互いの文化への理解が不可欠となるが、単に異文化について個別の知識を身に付けることにとどまるのではなく、日常文化やその根底にある価値観など直接目で見ることができない側面についても理解を深め、相互に尊重していく態度が必要となる。文化の背景となる価値観を共感的に理解することは、異文化に属する人と、実際にコミュニケーションをとることを通して可能になると思われる。一方、相互に理解を深めるためには、生徒が自文化や価値観などについても自ら説明できる力も求められる。そして、それらの力は、異文化に触れ、異なる価値観などとの共通点や相違点などを理解する過程で、より客観的に自文化を捉え直し、理解を深めながら育成されるものと考えられる。

新学習指導要領の外国語の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることの重要性に言及している。外国語によるコミュニケーションにおける見方とは、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え」ることであり、「外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要である」。また、学習指導要領の「教材選定の観点」には、「英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心を持ち、理解を深めようとする態度を育成することが大切である」、「複数の文化に触れることが、我が国の伝統文化についての理解を深め、文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに、英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくことが考えられる」と記されている。これらは先述の考えと軌を一にするものである。

## 2. 能力・態度の育成に当たって

### (1) 学校全体として育成する資質・能力について

学校全体として育成する資質・能力として、①日本の伝統や文化に関する理解、②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度、③文化の伝承・創造への主体性など、の3つが設定されている。これらの資質・能力の育成は、前節で述べた考え方に基づく外国語科として求められる資質・能力の育成を目指した指導によって可能となると考えられる。そこで、伝統文化教育を進めるに当たり、英語科においては、(1)異文化を背景とする他者を意識しながらコミュニケーションを取ること、(2)扱う題材として異文化や自文化を取りあげ様々な文化に触れること、さらに、(3)自分の思いや考え、文化について発信することを重視する。

新学習指導要領には、外国語科として求められている資質・能力は、言語活動を通して育成すると明示されている。そこで、指導においては、言語活動の設定が極めて重要になる。そこで、次の点を考慮した言語活動を行うこととする。

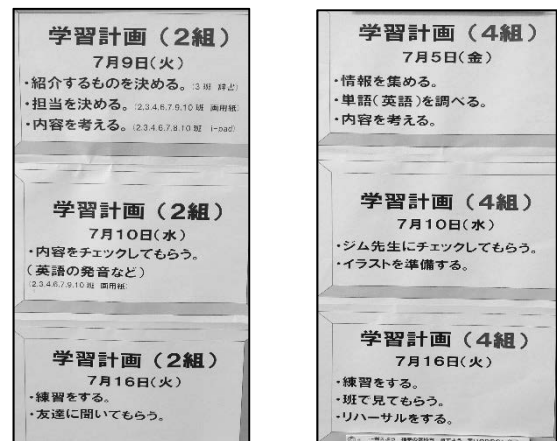
### ①目的、場面・状況、相手の具体的な設定

言語活動とは「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」である。すなわち、英語によるコミュニケーションを行うことと言える。実際にコミュニケーションが行われる場合には、常に、コミュニケーションを行う目的があり、具体的な相手が存在し、場面・状況が伴う。そして、これらに応じて、適切な内容や言語材料を選択する必要がある。目的、場面・状況、相手の具体的な言語活動を設定することにより、生徒が内容、言語材料を自ら考え、取捨選択しながらコミュニケーションができる機会を与えることが可能になる。特に異文化を背景とした他者とのコミュニケーションを促進する観点から、相手意識をより高めることができるように考慮する。

### ②主体的に学習に取り組む態度を育成するための工夫

まず、生徒が「知りたい」「伝えたい」と思えるような題材や言語活動の設定を目指す。また、言語活動のゴールに向けて学習計画を生徒と一緒に立てることにより、学習の見通しを持つことができるようにする。

(右写真は1年生の例)



### ③技能の統合 (表現と理解の組み合わせ)

「話す活動 (即興)」 → 「聞く・読む活動」 → 「話す活動」 → 「書く活動」の段階を踏んだ指導過程を組む。最初に伝えたい内容をマインドマップに書き、それを基に即興で話す。即興で話すことによって、言えない表現や内容として不足している点などに気づくことが期待できる。何度か即興で話した後、聞く活動あるいは読む活動を通して、内容面、言語面で学ぶ機会を設け、さらに、学んだことを活かして話す活動を行う。誤りに気づいたり、新たな英語表現を学ぶなどの言語面だけでなく、最初に伝えた内容を目的、場面・状況、相手などに応じて広げたり、深めたりできるような視点を生徒に与えられるようにする。表面的な事実の理解にとどまらず、その背後にある価値観や考え方などに迫ることができるよう、題材や発問などの工夫を行う。活動の最後は話したことをふり振り返りながら、書く活動を行う。話したときの英語の誤りなどに自ら気づき訂正し、友達同士でお互い読み合う機会となる。

### (2) 関連・連携を図った教科等について

本校での伝統文化教育の研究を進めるに当たり、「題材」や「内容」でつながりを持ちながら、各教科の連携を図ってきた。今年度、英語科では以下の新学習指導要領の内容を受けて、「題材」や「内容」のつながりと同時に、「資質・能力」のつながりでも各教科と関連・連携を図っていくこととした。

指導計画の作成に当たっては、小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

- (オ) 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心にあったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連づけたりするなどの工夫をすること。
- ・題材には、他教科等でこれまで学んできた、あるいは現在学んでいることを積極的に活用するなど、カリキュラム・マネジメントの観点から、教科間で学びのつながりや広がりがあるものとなるように工夫が求められている。
- ・国語科との関連については、言語能力の向上の観点からのカリキュラム・マネジメントを実現できるように、(中略)国語科での言語活動を想起させ、外国語でのスピーチや意見交換などの活動に生かすなど、同じ種類の言語活動を通して指導することも考えられる。

新学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い (3) 指導計画の作成上の配慮事項」

### 3. 成果と課題

#### (1) 第1学年の成果と課題

##### ①Program 5 「国際フードフェスティバル」

本単元は「国際フードフェスティバル」を題材としており、韓国料理やインド料理など諸外国の食べ物について知識を得たり、日本の食文化と比較したりすることができる。本単元の学習を通して、諸外国の食文化についての理解を深めると同時に、我が国の伝統的な食事に関心を持ち、それらを英語で発信できるようになってほしいと願い、本単元のゴールを「日本の食事や料理を留学生に紹介しよう」と設定した。

今回の学習では、「相手意識を明確にする」ことを特に意識して活動を行った。まず1時間目にマインドマップに紹介したい日本の食事や料理に関するキーワードを書かせ、そのマインドマップを基に、即興で話をさせた。生徒たちが選んだ食事や料理は、自分が知っているものや紹介しやすいものが多く、この段階では相手を意識した内容にはなっていなかった。

そこで、2時間目に紹介する留学生の写真を見せた。その結果、相手意識をより明確にし、内容を変更して伝える生徒が見られた。例えば、お好み焼きを紹介しようとした生徒は「豚肉を食べない国（宗教）があるのではないか？」と考え、その場合は、違う種類のもの（キムチやシーフードのお好み焼き）を伝えようとした。また、食文化に気づき、食べ方の違いがあるのではと考えた生徒は、「食べ方も伝えた方がいいのではないか？」とマインドマップに食べ方に関するキーワードを書き足していた生徒もいた。

3時間目にはモデルとして、日本に長く滞在しているALTのお勧めの日本の食事や料理について聞かせた。ALTの話聞き、内容面だけでなく、言語面についても参考としている生徒が見られた。また、再考したマインドマップを基に、何度かペアを替えて伝え合う活動を行うことによって、さらに自分にはなかった視点や表現に気づく機会になった。

留学生との交流授業では、日本の食事や料理を紹介するだけでなく、留学生の国の料理や食事を英語で説明してもらった。その時の生徒の感想を以下に示す。日本のものと比較することで、自国、他国の（食）文化の理解を深めることができた。また、相手や目的を明確にすることで、自分の伝えたい内容だけでなく、相手の文化や生活に配慮した内容を伝えることを意識した活動ができた。

- マケドニアでは豆を焼いて食べたり、鯉を食べるたりすると聞いてとてもびっくりした。
- 日本のことをより深く知ることができたと思いました。会話と字をそのまま読むのとは全く違うことが分かりました。
- 自分の調べた日本食に興味を持ってもらうことができよかったです。自分の知らない国の文化や食べ物を知ることができてよかったです。
- 「どうやったら興味を持ってもらえるかな」「どうやったら伝わるかな」と考えて準備・練習をした。
- 紹介する食べ物を知っている人、知らない人で伝える内容を変える力が必要だと感じました。



## ②Program 8 「Origami」

本単元では日本の伝統的な遊びであり、誰もが一度は体験したことのある「Origami」が題材となっている。「Origami」はすでに世界でも知られており、この技術を産業的に応用しようという取り組みが国内外で進行中でもある。本単元の学習を通して、折り紙の発想、技法は宇宙開発、ファッション、人工血管まで、幅広く活用されつつあることを理解してほしい。また、日本の伝統的な遊びにある、伝統工芸技術に関心を持ち、日本の伝統や文化に関する理解を深めてほしいと願い、本単元のゴールを「日本の伝統的な遊びやおもちゃを留学生に紹介しよう」と設定した。

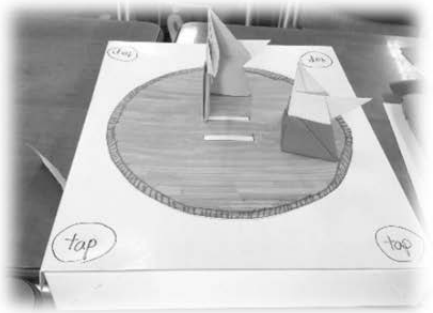
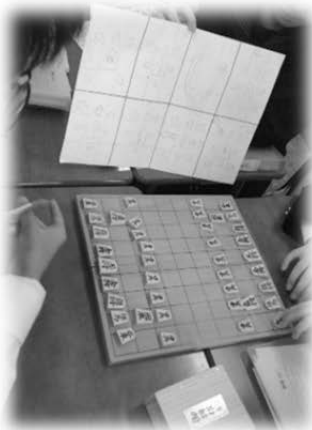
今回の学習では「他教科等との連携」を意識し、主体的に学習に取り組めるよう、学習計画の工夫を行った。生徒たちは社会科で平安時代の貴族の遊び（すごろくやけん玉）を学習しており、そこで学んだ知識や情報を基に、遊び方だけでなく、その物の歴史や背景などを伝える生徒の姿が見られた。また、「日本の時代の特徴を踏まえて、説明することができた。」「その文化がいつごろにできたかなどを勉強することができて、知識がより深まった。」という生徒の感想も見られた。

本単元の学習計画を立てる際に、前単元でやってみてよかったことや、足りなかったことなどを振り返る時間を設定したところ、より細かい学習計画を立てることができていた。例えば、前単元では、生徒から「友だちに聞いてもらう」活動が上がらず、教師側からその活動を提案した。生徒同士で読み合ったり、話し合ったりすることによって、新たな情報や表現に気づくことができた経験を生かし、本単元の学習計画には「友だちに聞いてもらう」という活動を取り入れていた。

活動が行われた授業では、以下のような生徒の感想が見られた。生徒の感想を以下に示す

- 私にはなかった表現の方法で友達が説明していたので、真似してみようと思いました。私の知らなかった、思いつかなかった表現をどんどん身につけていきたいです。
- 今日は友達と紹介し合って、「なるほど」と思ったところや「いいな」と思ったところを自分のところに加えられ、よりよくできたので良かったです。
- たくさんの友達に聞いてもらって、アドバイスがもらえたからよかった。紹介する人が同じ人がいたけど、表現の仕方違った。
- みんなで紹介し合っているときに、自分では思いつかなかったことがわかったので、人から情報を得るということは大切だと思った。
- いろいろな人の話を聞いて、どう表現すればわからなかった文も作ることができた。

留学生との交流授業では、前回の日本の食事や料理を紹介する活動とは違い、実際にやって見せたり、一緒に活動したりすることができたので、用意された原稿に頼ることなく、本物のコミュニケーションの中で自然と英語を使う場面が生まれた。生徒たちはその活動を通して、うまく自分の思いが伝えられない悔しさや、相手の言っていることが聞き取れないもどかしさなどを感じ、今まで学習してきたことの意義を改めて知り、これからの学習に対しての意欲が高まったと感じられた。



### ③Program 9 「A New Year's Visit」

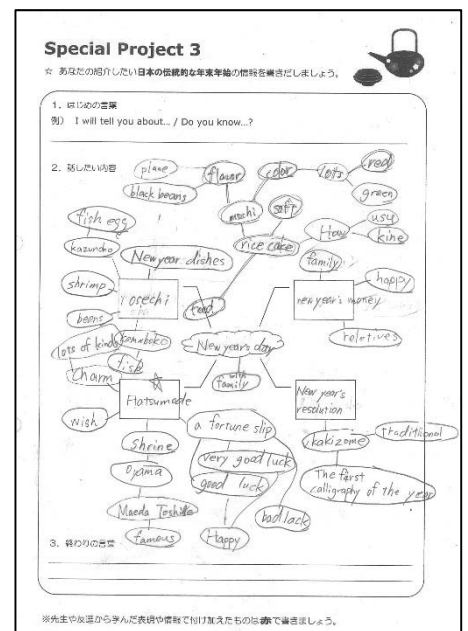
本単元では年始のあいさつと正月にお雑煮を食べるという日本の文化を扱いながら、日本人を妻とするジムとその子供たちを登場させることによって、日本文化を客観的に捉えることができる題材である。日本の伝統的な年末年始の食事や遊び、行事などを現代のものと比較することで、日本の文化の価値や意義について考えるきっかけを与え、自国の文化を尊重する態度を育てたいと考え、本単元のゴールを「日本の伝統的な年末年始を留学生に紹介しよう」と設定した。また、諸外国の年末年始の過ごし方を知る機会を設け、他国の多様な文化背景を尊重する態度も育成したいと考えた。

今回の学習では、「技能の統合」を特に意識して活動を行った。まず、単元の始めに、一度日本の伝統的な年末年始を英語で紹介させた。その中で、生徒たちはうまく伝えられないことに気づき、これからの学習で自分に必要な情報や英語表現などを学ぶ意欲を高められるようにした。

生徒たちは単元末に行う「日本の伝統的な年末年始を留学生に紹介しよう」という明確な目標のもと、Program 9 の学習の過程で出てくる年末年始に関するキーワードに意識を高めていた。そのため、今回はマインドマップの作成の際に、以前より多くのキーワードを書くことができている生徒が多く見られた。マインドマップを基にした即興対話(Speaking)の後、留学生からビデオメッセージを見ること(Listening)で、相手が何に興味があり、何を知りたがっているのかなど相手意識を持たせる機会とした。ビデオを見た後に加筆したマインドマップを基に再度ペアを替えて即興で対話を行った。さらに、留学生から諸外国の年末年始について書かれた手紙を読むことで(Reading)新たな英語表現を学べるようにした。最後に、マインドマップを基に、話した。内容の構成を再度見直し、情報を取捨選択しながら、相手に伝わるように工夫を凝らして、書く活動を行った。

また、生徒たちが書いたものを廊下に掲示することで、同じものを紹介していても違う表現を使っていたり、違う視点で紹介していることに気づいたりして、新たな視点を当てるよう工夫した。以下に生徒の感想を示す。

- 他国の人と過ごし方が全然違って、「そうなんだ～」と思うことがたくさんありました。友達のもと全然違うことが書いてあって、面白かったです。
- 外国でお正月にすることの紹介文と、友達との会話を通して、マインドマップのキーワードを増やすことができた。
- 友だちの説明を聞いて、私にはなかった表現の仕方がたくさんあったので、参考にしたいと思います。私の知らない表現がまだまだたくさんあるので、もっと知りたいです。
- 今日は金沢大学の人たちの方からの手紙やメッセージを基に、新しく情報を付け加えたりしました。前と比べて英語の文を考えられるようになりました。
- 留学生に日本の年末年始について紹介する文を考えました。なぜ食べるのか？なぜそうするのか？の意味を調べて英語にできたらいいと思いました。



赤で加筆されたマインドマップ

今年度1学年では学校全体として育成する①日本の伝統や文化に関する理解 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度 ③文化の伝承・創造への主体性などの3つ資質・能力の育成を、留学生に日本の伝統的なものを紹介する言語活動を通して行ってきた。

11月に行ったアンケートでは、「日本の伝統や文化について勉強することは大切である」という項目について、「当てはまる（どちらかという当てはまる）」と答えた生徒は全体の93%であった。その理由を以下のように述べている。

- 他の国の文化を知るうえで、自国の文化は理解しておかないとだめだと思うから。
- 伝統や文化を知ることによって、新しいことができると思うから。
- 昔のことを生かして、今のことに応用できるから。
- 伝統や文化を知ることによって、これからの文化に影響を与えて、新しい文化が生まれるかもしれないから。
- 昔のことを知れば、新しいものにも活用することができるかもしれないから。
- 外国の人の文化を理解するためにも、自国のことは知っておいた方が良く思う。



図書「英語で日本を紹介しよう」展示

中でも多かったのは「自分たちの代で日本の伝統文化を絶やしてはいけない。」という意見であった。その理由はアンケートでは明確にはならなかったが、③「文化を伝承」していかなければならないという意識は高いと感じられる。

今回の留学生との交流授業（3回）を通して、実際に留学生に伝えることで、自分が日本の伝統文化について知らないことや、それを英語で表現できないことに気づいた生徒が見られた。授業で行った伝統や文化に関するアンケート「日本の伝統や文化についての英語の知識がある」という問いに対し、4月では「当てはまる（どちらかという当てはまる）」と答えた生徒は45%であったが、11月では40%に下がっていた。

また、様々な国からの留学生の英語は、アクセントやイントネーションが普段のCDで聞く英語とは違い、理解できず、何度も聞き返している姿が見られた。留学生との交流授業において、自分が話している英語が正しい発音ではなく、相手に伝わらない経験をする中で、様々な母語を持った人が英語を話していることや、英語を話しているつもりでいたが、正しい発音ではないと相手には伝わらないということを知るよい機会となった。異なる英語に触れる機会を持つことは大切であり、生徒が自分の英語に対して堂々と使っていけるようになるとよいと感じた。



マインドマップを基に即興対話



「日本の年末年始紹介文」掲示



「日本の伝統的な遊び紹介」けん玉

## (2) 第3学年の成果と課題

3年生では、伝統文化をテーマにして、即興で相手に自分の考えを伝える力と表現力豊かにプレゼンテーションする力の育成を図ることを目指した。自分が紹介したいことを紹介するだけでなく、生徒一人一人に、紹介したい相手を意識し、相手が知りたいことや相手のニーズに応えることができるプレゼンテーションをさせたいと考え、2つの授業実践を行った

### ① Program 2 「日本の世界遺産を Jim 先生にプレゼンテーションしよう」

本単元では、日本の生活が長く、日本文化についてもよく知っている ALT の Jim 先生が行きたくなるようなプレゼンテーションをすることを最終ゴールとした。まず生徒たちは、自分が紹介したい日本の世界遺産を1つ選び、話す内容を考えた。その際、完全な文章ではなく、キーワードを見て話すことができるよう、スピーチメモを作成することとした。生徒たちは、自分が選んだ世界遺産について知らないことが多くあるため、社会の教科書や資料集など他教科の教材を見て調べたり、タブレット端末を使用して、必要な情報を収集したりしながら、内容を考えていた。

次に、同じテーマのグループを作り、一人ずつスピーキングメモを基にプレゼンテーションを行った。グループでのプレゼンテーションは生徒たちにとって、個人で考えたり、表現したりしたことがお互いに新たな情報になったり、よりよい表現方法を見つけることができる機会になった。また生徒たちは写真をタブレット端末を使って提示することで、よりわかりやすく、世界遺産の美しさや素晴らしさを伝えることができると実感していた。タブレット端末の使用は、よりよいプレゼンテーションの一助となった。その後、グループで、原稿を1つ作成して、Jim 先生へのプレゼンテーションをすることとした。その活動の途中で、昨年度の3年生が行った同じ内容のプレゼンテーション動画（ジム先生がベストプレゼンテーションに選んだもの）を視聴した。内容だけではなく、表現方法や使っている英語表現を参考にすることができ、良い点を取り入れて、さらに自分たちのプレゼンテーションをよりよいものにしようとしていた。プレゼンテーションで行った授業で、生徒たちは以下のように振り返っていた。

#### <世界遺産プレゼンテーションの振り返り>

自分達の発表は発音はしっかりと意識できていたが、ジェスチャーをつけていなかった。なので「プレゼンテーション」という面では課題が残ったと思う。天草地方の杵杵川シラネの人々について発表のグループは、何も知らない人でも分かるほど内容が濃く工夫もありとても良い発表だったと思う。特に小笠原諸島について話すグループは写真が多く使われていて、難い英語も写真で理解することができた。今回の課題を今後の活動につなげていきたい。

自分たちで音声が聞こえ、そこから感じたことで、しっかりと英語でプレゼンできたと思います。しかし、まだまだ改善できるところがあります。それ、他のグループの発表も学ぶことがありました。具体的には、ジェスチャーを使い、身近な話題から入ったりすることです。そのことで、さらに分かりやすく、聞いている人の注意を引きつけたいです。また、オリジナルの歌も出したいです。

今回、屋久島について発表しましたが、深田先生とかがおられた他のグループも見て、プレゼンターの指示もよく、笑顔、身振り、手振りもよく伝わって良かった。特に、松葉菜にまつわりとまつ、どう表現すればかを考えたことができた。今回、先生とかがしっかりとこの発表も授業で生かしていただけたら良いと思います。頑張ります。

質問の意味が分からなくて、教員が覚えていなくて大変でした。でも、クイズをしたことにより興味を持ってくれたのではないかなと思う。最初は手をあげてくれなかったけど、3つ目まで手をあげたと言ったことで、あげてくれる人がたくさんいてうれしかった。数字を画像として入れている班もあり、工夫がたさん見られた。全体的に伝えようとしている人が多かったのではないかな。私自身も内容が分かるものがたくさんあり、英語がわかりやすかったように感じた。

この実践の課題として、生徒たちは Jim 先生にプレゼンテーションすることはでき、Jim 先生の質問にも答えることができていたが、Jim 先生のニーズに応えることができていなかった点が挙げられる。Jim 先生についての情報（「行ったことがない」「家族で行きたい」「〇〇に興味がある」など）を提示し、相手意識をさらに持たせ、相手のニーズに応えることができるプレゼンテーションをさせる必要があったと感じた。

② My Project 8「金沢大学の留学生に“Kanazawa One Day Tour”をプレゼンテーションしよう」

本単元では、「金沢の伝統文化を紹介しよう」とし、金沢の見所や食文化、伝統文化について考えさせる機会とした。総合的な学習の時間においても、「10年後の金沢」について、自身のテーマを決めて、提言していることから、それを活かしたり、参考にしたりしながら、自分の思いや考えを発信させたいと考え、本単元のゴールを、金沢大学の留学生に、「Kanazawa One Day Tour」と題した金沢観光プランを、個人でプレゼンテーションすることとした。実践①の反省から、生徒たちには自分の考えや思いを提案するだけでなく、伝えたい相手を意識し、相手のニーズに応えることができるプレゼンテーションをさせたいと考えた。また生徒がペアやグループでの対話や Reading 活動を通して、考えを深めたり、新たな表現を学び、取り入れたりしながら、プレゼンテーションを完成させていけるように、授業を展開していくことも目指し、実践を行った。

<“Kanazawa One Day Tour”プレゼンテーションの振り返り>

このプレゼンテーションで自分のプレゼンテーションは相手のニーズに合ったものか、必要になったか、大変だったか、よい経験になりました。また、金沢の有名な地をまだ知らなかった人にどうやって魅力を伝えるかを考え、発表する機会になりました。そして、同じグループの人の素晴らしい表現を見学し、自分の原稿と見比べて良かったところ。

初めは伝えたい事をつらつらと並べていたけれど、プレゼンをするにあたって相手の気持ちや考えを導くことも大切だと思いついた。文の中に疑問文をいれ、興味をそそくようにした。今回、自分の住む町の事を少し深く理解することができて、思いのたけ、もっと深く理解し、外国の文化を深く理解したいと思つた。

自分の身の回りには、世界に発信できるような魅力があるか、それを伝える機会になった。なぜ、自分のその場所、名物を紹介したいのかという理由についても明確に考えようになったので良かった。自国の文化と他国の文化を比べることは、国境を越えて人々を理解しようとする第一歩になると思うので、今回の学習を機に、外国の文化について話し合う場面を増やしたい。

「Kanazawa One Day Tour」を金沢大学の留学生に向けて、プレゼンテーションをしてみたら、実際に伝える相手に明確になっているから、留学生のためのプレゼンになる、と思いつきました。プレゼンテーションは自分の成長のためにも必要ですが、自分一人のためだけでなく、他者の誰かのためでもあるのだと感じました。プレゼンで納得のあるものにするためには、しっかり相手の目（今回はカメラ）を見て、大声で、ゆっくり、しっかりと話すことが大切だと思います。「伝説」ためのプレゼンを今後もしっかりしていきたいです。

初め、最も面白い有名な場所を紹介しようと思つたのですが、これは留学生に金沢の良いところを知ってもらいたいと思つた。あり有名でない場所についても紹介しました。どちらも、ほんのりの外国の方が求めたニーズに合ったものではないかと思つた。また、自分の気持ちで伝えたいことをわかってもらうことが、たまたまないけれど、外国の留学生の人達には、伝えるものがあると思うので、また、自分自身も金沢の魅力を伝える機会になり、勉強になりました。もし沢山の人がこれからも伝えたいです。

普通に金沢の観光地を紹介するだけではつまらないので、何が自分には工夫をと思つて考えました。また、留学生の希望を受けて、内容を変更することもありました。伝えたい相手やどういふ人はあると考えて、プレゼンを考えるのはすごく大切なことだと感じました。これらプレゼンをするときはこれを大切にしたいです。

今回の授業の大きなポイントとしては、留学生のニーズをどこの場面で提示するかであった。授業実践①と同様に、最初は、生徒たちは個人で Tour プランを考え、金沢について自分が紹介したい、知ってほしい場所やものについて、話せるようスピーキングメモを作成した。この時点で、たくさんの生徒が、かなり充実した内容のメモを作ることができており、プレゼンテーションへの意欲はもちろん、3年生としてつけたい英語の力がついてきていることを感じた。生徒たちは自分が考えたプランをグループでプレゼンテーションを行って、新たに表現の仕方や英語表現を学んだり、さらにプランをよりよくしたりするが、そこで6人の留学生からきたメール文を読んで、留学生のニーズを知ることとなる。自分の考えたプランを相手に合わせて変えられるか、それ

とも自分が考えたプランに合った相手を選ぶかに分かれた。結果として、生徒たちは留学生のニーズに応えようと意識しながら、臨機応変に対応して、留学生に観てもらおうための「Kanazawa One Day Tour」のプレゼンテーション動画を全員が撮影することができた。

課題としては、相手のニーズをどのタイミングで生徒たちに知らせるかをずっと綿密に考え、授業計画に入れなければならないという点が挙げられる。「もっと早く知りたかった」という相手のことを思う生徒の声を大切にして、「どこの国の留学生なのか」「何歳くらいなのか」「金沢についてどのくらい知っているのか」などの基本情報は最初に提示するなど、考えていく必要がある。

生徒たちは3年生になり、英語の表現活動を通して、楽しさだけではなく、伝えられないもどかしさや悔しさ、難しさなどを日々感じながら、一生懸命に英語学習に取り組んできた。4月当初の授業では、間違えることを恐れ、発表や発言をすることを躊躇する生徒が多く見られたが、帯活動で行っている即興対話活動（Today's Free Talk, Ping Pong Discussion）のペアでのやり取りや、ペアやグループでの表現活動に取り組むことで、相手を意識し、相手に合わせた対話の仕方などを身に付け、多くの生徒が話す力・やり取りする力が付いていることを実感できるようになった。またスキットやプレゼンテーションなど、自分たちで創作して、発表をする活動を楽しみしており、3年間の英語学習の中で最も好きな活動に挙げている生徒が多い。「聞いている人に共感してもらいたい」「前回の発表よりも表現や内容をよくしたい」と、質の向上にも努めており、意欲を持って取り組む姿勢は、英語学習意欲の向上につながっていると考えられる。以下は4月と12月に行ったアンケート結果である。

(A:あてはまる B:どちらかというにあてはまる C:どちらかというにあてはまらない D:あてはまらない)

- |    |   |        |        |        |       |
|----|---|--------|--------|--------|-------|
| 1. | 英語の授業に意欲的に参加している。                         |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 29% | B: 54% | C: 14% | D: 3% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 56% | B: 39% | C: 3%  | D: 2% |
| 2. | 即興対話活動や Talk & Talk など、英語で対話する力が身に付いた。    |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 31% | B: 53% | C: 14% | D: 2% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 54% | B: 37% | C: 8%  | D: 1% |
| 3. | 自分の気持ちや考えを、英語でうまく人に伝えることができる。             |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 11% | B: 61% | C: 23% | D: 5% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 37% | B: 56% | C: 12% | D: 4% |
| 4. | 理由をはっきりと明確しながら、自分の考えを英語で書いたり話したりすることができる。 |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 14% | B: 55% | C: 27% | D: 4% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 24% | B: 64% | C: 9%  | D: 3% |
| 5. | 与えられたテーマについて、自分の考えを入れて、英語でプレゼンテーションができる。  |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 16% | B: 51% | C: 25% | D: 8% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 36% | B: 50% | C: 13% | D: 1% |
| 6. | 相手を意識し、相手のニーズに対応しながら、英語でプレゼンテーションができる。    |        |        |        |       |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 33% | B: 52% | C: 13% | D: 2% |
| 7. | 英語の授業を通して、相手を意識して発表する力が身に付いた。             |        |        |        |       |
|    | < 4月時点 >                                  | A: 34% | B: 53% | C: 12% | D: 1% |
|    | < 12月時点 >                                 | A: 52% | B: 46% | C: 2%  | D: 0% |

上記の結果以外にも、「高校生になったら、英語を使ってどんなことがしてみたいか」という質問には、多くの生徒が「日本や金沢の魅力を伝える」「他国の伝統文化・習慣を知りたい。」「留学生と交流・意見交換したい。」「留学やホームステイをして、英語を使っていきたい。」「同世代の外国人とディスカッションがしたい。」と答えている。今年度は、ディベートやディスカッションで意見を戦わせる活動をさせる機会が少なかった。実践的な場面を設定し、議論する力の育成を図り、生徒たちが自信を持って高校英語に進んで行けるようにすることを今後の課題とし、引き続き行っていきたい。

また、生徒が英語学習への意欲を持ち続けることが、英語学習を続けていくモチベーションになり、生徒のコミュニケーション能力や英語力の向上につながると考え、日々の一つ一つの授業、言語活動を大切に実践していきたいと思う。

# 実践事例

英語

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">社会・家庭</p>
<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめの日本食（作り方，おすすめのお店）を留学生に紹介する。</li> <li>・諸外国の食事や料理を知る。</li> </ul>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>【外国語表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手が理解しやすいように，工夫して日本食を英語で伝えることができる。</li> </ul>	<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本の伝統や文化に関する理解</li> <li>③文化の伝承・創造への主体性など</li> </ul>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Warm Up（7分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B I N G Oで語句を学ぶ。</li> <li>・ ペアで1つのトピックについて60秒の即興対話活動を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 本時の課題を知る（3分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金沢大学の留学生の写真を見て，彼らが「日本食（日本料理）について知りたい」と言っていることを知る。</li> </ul> </li> <li>3. 紹介したい日本食（日本料理）を出す（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で留学生に紹介したい日本食（日本料理）を出し合う。</li> <li>・ ペアで情報交換をした後，クラス全体で何を紹介したいかアイデアを出す。</li> </ul> </li> <li>4. 紹介したい日本食（日本料理）の情報を書き出す（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で紹介したい日本食（日本料理）の情報をマインドマップに書く。</li> <li>・ ペアで出てきたキーワードを基に，即興で日本食（日本料理）を紹介する。</li> <li>・ ペアを変えながら紹介し合い，付け足しや修正などを行う。</li> </ul> </li> <li>5. 教師のモデル文を聞く（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「たい焼き」についての紹介を聞いて，伝える内容や使える表現の参考にする。</li> <li>・ マインドマップに付け足しをしながら，内容を再構築する。</li> </ul> </li> <li>6. 再考したメモを見ながら日本食（日本料理）を紹介する（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再考したマインドマップを基に，4人グループで紹介を聞き合う。</li> <li>・ グループからの意見や質問を参考に，相手が知りたい情報を入れたり，表現を改善したりするなどの工夫をして，よりよい内容になるように考える。</li> </ul> </li> <li>7. 学習計画を立てる（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に留学生が来校し，彼らに日本食（日本料理）を紹介することを知り，それまでに必要な授業計画を立てる。</li> </ul> </li> </ol>	



# 実践事例

英語

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">社会・家庭</p>
<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な日本の遊びやおもちゃを留学生に紹介する。</li> <li>・ 諸外国の伝統的な遊びやおもちゃを知る。</li> </ul>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>【外国語表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手が理解しやすいように、工夫して日本の遊びやおもちゃを英語で伝えることができる。</li> </ul>	<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本の伝統や文化に関する理解</li> <li>③文化の伝承・創造への主体性など</li> </ul>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Warm Up（8分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B I N G Oで語句を学ぶ。</li> <li>・ ペアで1つのトピックについて60秒の即興対話活動を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 前時の学習内容を振り返る（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Program8で日本の伝統的な遊びである折り紙について学習したことを振り返る。</li> <li>・ 折り紙について、知っていることや遊び方などを英語で説明する。</li> </ul> </li> <li>3. 日本の遊びやおもちゃを紹介する〈即興対話①〉（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の日本の伝統的な遊びやおもちゃをできるだけたくさん挙げる。</li> <li>例）コマ、お手玉、あやとり、けん玉、おはじき、カルタ、百人一首など</li> <li>・ 出てきたものからそれぞれ一つ選び、ペアで即興対話をする。</li> </ul> </li> <li>4. 留学生に紹介したい遊びやおもちゃの情報を書き出す（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手意識を持たせるため、前回来校した留学生の写真を見せ、彼らが日本の伝統的な遊びやおもちゃを知りたいことを伝える。</li> <li>・ 再度、何を紹介したいかを選び、情報をマインドマップに書く。</li> </ul> </li> <li>5. 日本の遊びやおもちゃを紹介する〈即興対話②〉（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マインドマップを基に、即興で遊びやおもちゃを紹介する。</li> <li>・ 即興対話を受けて、付け足しや修正などを行う。</li> </ul> </li> <li>6. 学習計画を立てる（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即興対話を受けて、何が足りないか、どんな情報が必要か考える。</li> <li>・ 留学生に日本の遊びやおもちゃを紹介するために必要な学習計画を立てる。</li> </ul> </li> <li>7. 本時のまとめ（2分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で立てた学習計画を基に、次時の内容を確認する。</li> </ul> </li> </ol> <p>次時</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 教師のモデル文を聞く（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の「凧あげ」についての紹介を聞いて、伝える内容や使える表現の参考にする</li> <li>・ マインドマップに付け足しをしながら、内容を再構築する。</li> </ul> </li> <li>9. 再考したメモを見ながら遊びやおもちゃを紹介する（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再考したマインドマップを基に、ペア・班で紹介文を伝え、相手の紹介文を聞く。</li> <li>・ 班からの意見や質問を参考に、相手が知りたい情報を入れたり、表現を改善したりするなどの工夫をして、よりよい内容になるように考える。</li> <li>・ 留学生の情報（出身国、日本滞在日数など）を聞き、相手に合った紹介になるように意識する。</li> </ul> </li> </ol>	



# 実践事例



英語

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">社会・家庭</p>
<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸外国の年末年始の過ごし方を知る。</li> <li>・ 留学生に日本の年末年始の過ごし方を紹介する。</li> </ul>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>【外国語表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き手が理解しやすくなるように、工夫して、メモを見ながら話すことができる。</li> </ul> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手意識をもって言語活動に積極的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度</li> <li>③ 文化の伝承・創造への主体性など</li> </ul>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Warm Up（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアで1つのトピックについて60秒の即興対話活動を行う。</li> <li>・ 1ペアがクラス全体で対話を発表する。</li> </ul> </li> <li>2. 前時の復習（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年末年始に何をするか英語で簡単なやりとりを行い、前時の復習をする。</li> <li>・ 留学生に「日本の年末年始の過ごし方を紹介する。」という学習ゴールを確認する。</li> </ul> <p><b>課題</b> 留学生に日本の伝統的な年末年始について紹介しよう。</p> </li> <li>3. 即興対話①（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に作成したマインドマップを基に、「日本の年末年始」についてペアで即興対話をする。</li> <li>・ ペアで伝え合い、内容や表現など必要な情報があればマインドマップに付け足す。</li> </ul> </li> <li>4. 「諸外国の年末年始の過ごし方」を聞く（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 留学生の年末年始の過ごし方を紹介した動画を観る。</li> <li>・ 諸外国の年末年始について知り、日本の過ごし方との相違点に気づく。</li> <li>・ 留学生が何に興味があり、何を知りたいのかを知る。</li> <li>・ 留学生に伝える内容を再考する。</li> </ul> </li> <li>5. 即興対話②（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再考したマインドマップを基に、ペアを変えて伝え合う。</li> <li>・ 内容や表現など、参考になる情報があればマインドマップに付け足す。</li> </ul> </li> <li>6. 「諸外国の年末年始の過ごし方」を読む（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4の動画で観た国やそれ以外の国の年末年始の過ごし方が書かれものを読み直す。</li> <li>・ 日本の年末年始を紹介するときに、使えそうな英語表現の参考にする。</li> </ul> </li> <li>7. 発表原稿を書く（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の「日本の年末年始紹介」撮影のために、下書き原稿を書く。</li> <li>・ 「諸外国の年末年始の過ごし方」紹介で使われている表現や、以前行った「日本食紹介」「日本の遊び紹介」で使った表現や内容を振り返り、参考にする。</li> </ul> </li> <li>8. 振り返り（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の振り返りを書く。</li> <li>・ 次回の内容を確認する。</li> </ul> </li> </ol>	



# 実践事例

英語

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">社会・総合</p>
<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の世界遺産の中から，グループで1つ選び，Jim先生に行ってみたいと思ってもらえるプレゼンテーションをする。</li> </ul>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手を意識して，充実した内容のプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>【外国語表現の能力】</li> </ul>	<p>育成したい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本の伝統や文化に関する理解</li> </ul>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>&lt;前時までの流れ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本文を読んで，日本の世界遺産（原爆ドーム・知床・日光）についての説明文の組み立て方を理解する。</li> <li>自分が選んだ世界遺産について，知っていることを5文程度で書く。</li> <li>Jim先生がぜひ訪れてみたいと思えるようなプレゼンテーションをするため，タブレット端末を使って情報を収集し，紹介文がよりよくなるように英文を作成する。</li> <li>タブレット端末で写真を提示しながら，個人の発表をグループで行う。</li> <li>同じ世界遺産を選んだ4人のグループを再結成し，協働で紹介文を1つ作成する。</li> <li>プレゼンテーションに向け，役割分担を決め，タブレット端末を使って，練習する。</li> </ol> <p>&lt;本時の流れ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>あいさつの後，グループに分かれて，プレゼンテーションの打ち合わせ，練習する（5分）</li> <li>世界遺産を紹介するプレゼンテーションを行う。（40分）             <ul style="list-style-type: none"> <li>1グループ約3分のプレゼンテーションをする。</li> <li>Jim先生が2，3の質問をする。</li> <li>聞いている生徒は，良い表現や印象に残った点などをワークシートに記入しながら聞く。</li> </ul> </li> <li>まとめをする。（5分）             <ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンの中から，Jim先生に行ってみたくなった日本の世界遺産ベスト3を発表する。</li> <li>活動全体を通しての振り返りを，ワークシートに書く。</li> </ul> </li> </ol>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

